

令和5年度学校評価アンケート集計結果について

長崎県立島原特別支援学校

- 1 実施期間 令和5年12月11日（月）～12月22日（金）
- 2 回収率 保護者 92% 教職員 94%
- 3 考察 成果を○、課題を●で表しています。

【保護者評価】

- 全体的な評価（総計平均）は3.7ポイントで、昨年度と同じ数値でした。新型コロナウイルス感染症が5類に移行され、教育活動もコロナ禍前に戻りつつある。しかしながら、依然として感染対策を講じながらの教育活動ではあるが、おおむね高い評価をいただいていると言える。
- 各評価項目については、〈教育活動〉、〈開かれた学校〉は昨年度と同じ数値であった。〈教育環境〉については、0.1ポイント上回る結果となった。
- 評価が高かった項目（平均3.8ポイント以上）は、
 - 項目 2 「学校は、明るく活気のある学校づくりを行っている。」
 - 項目 9 「学校は、感染症対策を講じながら学校行事等を計画・実施している。」
 - 項目 11 「学校は、子供が安全・安心な学校生活を送れるよう、防災教育の推進や事故防止に努めている。」
 - 項目 13 「授業参観や保護者面談は感染症の状況等にに応じて適切に行われている。」

学校が、子供たちの笑顔につながる教育活動の推進、ならびに感染症対策や防災・安全対策を適切に行い、家庭と連携しながら教育活動を進めていることが評価された結果だと推察される。

●評価が低かった項目（平均3.6ポイント以下）

- 項目 4 「学校は、細やかな実態把握に基づいて的確に子供を理解し、個に応じた指導・支援を行っている。」
- 項目 6 「学校は、子供の成長に合わせ、将来を見通した進路指導を行っている。」
- 項目 7 「学校は、子供の変容や課題等について分かりやすく説明している。」

学校に対して、的確な実態把握に基づいた適切な指導・支援及び保護者との連携の重要性、また、発達段階に応じた進路指導の充実が求められている結果であると推察される。

小学部から高等部まで系統性のある教育活動の推進、ならびに高等部卒業後の希望する進路実現を見越した進路指導の充実を期待されている結果だと推察される。

◇ 自由記述にて、以下のような内容のご意見をいただいた。各学部や各校舎で十分に検討し、対策を講じていく。

- ① 児童生徒の様子観察ならびに、職員間の情報の共有について（小）
- ② 生徒玄関の狭さについて（中）
- ③ 連絡、提出プリントのLINE等アプリや、安心メールの活用について（高）
- ④ 校内での保護者に対する挨拶について（高）

【教職員評価】

○全体的な評価（総計平均）は、3.6ポイントで、昨年度から0.1ポイント下回る結果でしたが、おおむね高い評価だといえる。

○各評価項目については、教育活動については0.1ポイント昨年度を上回り、教育環境については0.2ポイント減少、開かれた学校については0.1の減少という結果であった。

○評価が高かった項目（平均3.7ポイント以上）

項目 1 「学校の教育目標や指導方針は適切である。」

項目 2 「学校は、明るく活気のある学校づくりを行っている。」

項目 3 「学校と家庭が必要な情報を共有し、連携しながら指導を進めている。」

項目 8 「学校は、社会生活に必要なマナーやルールを適切に指導している。」

項目 9 「学校は、感染症対策を講じながら、学校行事等を計画・実施している。」

項目 11 「学校は、児童生徒が安全・安心な学校生活を送れるよう、防災教育の推進や事故防止に努めている。」

項目 14 「学校は、保護者からの連絡や相談に対して、適切に対応している。」

主に学習活動に関する項目でよい評価が見られた。各部、校舎において生徒一人一人の障害特性に合わせた学習活動への取組や、安全安心を第一に考えた防災教育の充実がその理由だと考えられます。また、日々の学校の様子や学校行事等、保護者との連携に十分取り組んでいることが高評価につながっているものと推測される。

●評価が低かった項目（平均3.5ポイント以下）

項目 6 「学校は、児童生徒の成長に合わせ、将来を見通した進路指導を行っている。」

項目 12 「学校は、各種便りやリモート等を活用し、学校間や地域との交流活動に努めている。」

本人及び保護者がめざす将来の姿を意識した進路指導の充実の必要性がうかがえる。各発達段階において適切な進路指導を充実させ、各学部卒業後の進路および、高等部卒業後の進路を視野に入れた指導を目指していくことの必要性を教職員が感じている結果だと推測される。

学校行事や取組等を、地域や他校に発信することに力を入れていくことが必要であると考えられている。HPをはじめとして、いろいろな手段で情報を発信していくことが求められている。また、コロナ渦が過ぎ、児童生徒の居住地校や、地域の学校及び地域の団体等との交流活動を更に活発化させていきたいと感じている結果であると推測できる。

◇ 自由記述にて、以下のような内容のご意見をいただいた。各学部や各校舎で十分に検討し、対策を講じる。

① 管理職とのコミュニケーション、話しやすい環境づくりについて（小）

② ホームページの活用について（高）

③ P T A活動の活性化について（高）

④ 精神疾患を有する生徒への対応ならびに職員のストレス緩和について（高）

⑤ 教職員の時間外勤務の縮減について（小）

⑥ 年度が変わる際の業務の引継ぎの効率化について（事）

⑦ 生徒の社会的マナーやルールの指導について（高）